

# 石川県立美術館だより

平成14年9月1日発行 第227号



長篠合戦図屏風 徳川美術館蔵

## あつ利家

加賀百万石物語

- 前田家と加賀文化 -

9月14日(土)~10月27日(日)会期中無休

### 目次

利家とまつ 加賀百万石物語展 .....	2	展覧会回顧(大樋長左衛門展) .....	5
加賀藩の美術工芸、「利家とまつ」展関連事業...	3	企画展示室、貸出中の所蔵品 .....	6
吉田富士夫・手品師の息づかい .....	4	月例映画会 今月のイチ押し .....	6
常設展示室 主な展示作品 .....	4	県美Q&A、九月の行事案内、ミュージアムコンサート ...	7
美術館小史・余話(26) 図書閲覧室NOW ...	5	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9、2展示室)

# 利家とまつ 加賀百万石物語展

## 前田家と加賀文化

9月14日(土)~10月27日(日)会期中無休

主催/石川県立美術館・金沢放送局・中部ブレイズ  
 共催/北國新聞社 後援/文化庁 特別協力/財団法人前田育徳会  
 制作協力/プロモーション 協力/JR西日本  
 協賛/ハウス食品株式会社



前田利家夫人画像(部分) 桃雲寺蔵



前田利家画像(部分) 桃雲寺蔵

前田利家は、天正六年(一五三七)、戦国乱世の真つ只中、尾張国荒子村(現・名古屋市中)の土豪前田利春(利昌)の四男として誕生します。十五歳で織田信長に仕え、尾張海津(豊津)の戦いに初陣して以来、次々と合戦で武功をあげ、三十二歳で前田家の家督を継ぎます。

天正三年(一五七五)、信長の北陸支配に伴い、越前府中三人衆の一人として、府中城(現・福井県武生市)に入り、その後北陸の一向一揆や越後の上杉氏との戦いに奔走し、その功により、天正九年(一五八一)、能登一國が与えられ、所口(七尾市)の小丸山に城を築き、初めて国持大名となります。しかし、翌年本能寺の変で信長が亡くなると、その後継をめぐって柴田勝家と羽柴秀吉の賤ヶ岳の合戦後、勝利した秀吉(後の豊臣秀吉)に仕え、加賀国金沢城に入城します。

天正十二年(一五八四)、信長時代の朋輩であった越中国の佐々成政と能登末森で戦い、後に秀吉の応援を得て勝利し、翌十三年(一五八五)、能登、加賀、越中三ヶ国支配の基盤を固めます。

以後、利家は、秀吉の全国制覇の重要な担い手として活躍、また、秀吉の幼子秀頼の傳役となり、徳川家康と肩を並べる豊臣政権下の実力者として五大老にも列しますが、慶長三年(一五九八)秀吉が没すると、翌年後を追うように六十三歳の波乱に富んだ人生を閉じます。そして時代は、天下分け目の関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康の幕府成立へと大きく流れて行きます。

この展覧会は、平成十四年NHK大河ドラマ「利家とまつ 加賀百万石物語」と連動して、第一部では加賀百万石の基礎を築いた前田利家の人となり、第二部では前田家によって生まれ、百万石の城下で花開いた加賀文化の精華を紹介しますが、今回は、第一部「前田利家 人と時代」の展示構成を中心に紹介し、次回は第二部「加賀文化の確立」の展示構成を主に紹介いたします。

### 第一部 前田利家 人と時代

ここでは、「槍の又左」と恐れられた勇猛果敢な青年時代から、戦国の世を勝ち抜き、確固たる地位を築き上げるまでの、前田利家の人となり、利家が生き抜いた激動の時代背景を、信長、秀吉、妻まつなど、周辺人物との交流を含め関連資料により紹介します。

主な展示作品(重要文化財 重要美術品 県指定文化財 市町村指定文化財)

#### (1) 尾張・越前の時代

前田利家画像(中山本) 前田利春(利昌)画像(長齢寺蔵) 織田信長画像(神戸市立博物館蔵) 長篠合戦図屏風(徳川美術館蔵) 他

#### (2) 能登・加賀の時代

賤ヶ岳合戦図屏風(大阪城天守閣蔵) 豊臣秀吉書状(毛利博物館蔵) 織田信長朱印状(前田育徳会蔵) 前田利家書状(立教大学図書館蔵) 他

#### (3) 秀吉の補佐役として

豊臣秀吉画像(西教寺蔵) 高台院画像(高台寺蔵) 前田利家書状(仙台市博物館蔵) 朝鮮渡海五大老連署状(豊国神社蔵) 聚楽第行幸図屏風(堺市博物館蔵) 前田利家遺言状(写)

金小札白糸素懸威胴丸具足(前田育徳会蔵) 蒔絵朱鞘大小拵(尾山神社蔵) 他

#### (4) まつ(芳春院)と家族

前田利家画像、夫人画像(桃雲寺蔵) 芳春院書状(前田土佐守資料館蔵) 前田利長画像・前田利政画像(長齢寺蔵) 前田利常画像(那谷寺蔵) 他

期間中、作品により展示替えがありますので、ご了承ください。

#### 観覧料(常設展示室を含む)

個人		団体(20名以上)	
一般	1,000円	一般	800円
大学生	600円	大学生	400円
小中高生	300円	小中高生	200円

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。加賀百万石博入場券持参の場合も、団体料金でご覧になります。



加川金沢城図 有沢永貞 金沢市立玉川図書館蔵



鉄打出二枚胴 尾山神社蔵



小鯉尾形兜 尾山神社蔵

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

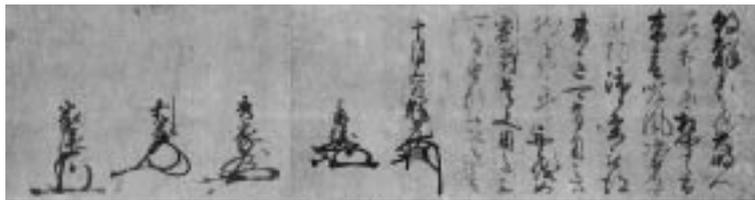
# 加賀藩の美術工芸

9月14日(土)~10月27日(日)

今回の特集では、同時期に開催される特別展「利家とまつ 加賀百万石物語展」と連携して、加賀藩歴代藩主が収集した貴重な歴史資料と、美術工芸の優品を展示します。まず歴史資料として最初にご紹介したいのは重要文化財「武家手鑑」です。この手鑑は前田家十六代当主利為が、五代藩主綱紀の方針を継承して新たに編成したものです。最大の特徴は平安時代の平忠盛の書状から、江戸時代の加賀藩三代藩主前田利常の書状まで、百五十人の武人の書状類を年代順に三帖にわたって配置していることです。今回は平安から鎌倉時代と、今年の大河ドラマ「利家とまつ」の舞台となった室町時代末期から江戸時代初期の二帖を展示し、時代の証言者としての「武家手鑑」の価値を再認識したいと思います。また今回あわせて展示する「安土日記」「信長記」「関原軍記」もご注目いただきたい歴史資料です。

美術の優品では、重要文化財「荏柄天神縁起絵巻」に是非ご注目いただきたいと思います。この作品は、神奈川県鎌倉市の荏柄社に伝来した北野天神縁起であり、天神信仰が篤く、菅原道真に関する文物を熱心に収集した五代藩主綱紀が購入したものです。また今回は三代藩主利常が後水尾院から賜った「職人歌合」も展示します。特別展「利家とまつ」には後水尾院関係の作品も展示されますので、あわせてご覧いただくことで歴史的背景への理解が深まるものと思います。

工芸では、ベルギー製のゴブラン織で重要文化財の「アエネアス物語図毛綴壁掛」や清水九兵衛作「真鳥羽入箆笥」などを展示します。このように今回の展示は、収集と育成の二つの方針が理想的な展開を遂げた加賀藩の文化政策の特質を再認識する、よき手引きとなるものです。数百年を経てもお生き続ける文化の価値を見据え、政策の中心とした藩主たちの英断は、財政基盤を揺るがせたとの批判を超越して、賞賛されるべきではないでしょうか。



朝鮮渡海五大老連署状 京都・豊国神社蔵

## 「利家とまつ 加賀百万石物語展」関連事業

### 対談

「利家とまつ」前田家当主 先祖を語る  
前田利祐氏(前田家18代当主)  
嶋崎 丞(当館館長)  
9月14日(土) 午後1時30分~ 当館ホール(聴講無料)

### 第88回ミュージアム・コンサート

「利家とまつ」を奏でる  
曲目: NHK大河ドラマ「利家とまつ」のテーマ他  
演奏: オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー  
9月23日(月・祝)  
午後1時30分~ 当館ホール(要入場整理券・受付終了)

### 講演会

9月29日(日)  
演題: 「戦国武将と茶の湯」  
講師: 嶋崎 丞(当館館長)  
10月6日(日)  
演題: 「前田家と加賀文化」  
講師: 嶋崎 丞(当館館長)  
いずれも午後1時30分~ 当館ホール(聴講無料)

### 土曜講座

9月21日 「加賀の金工」 南 俊英(学芸第一課長)  
9月28日 「前田家をめぐる女性たち」  
末吉守人(普及課長)  
10月 5日 「前田利常と後水尾天皇」  
高嶋清栄(学芸専門員)  
10月12日 「利家画像あれこれ」  
村上尚子(学芸員)  
10月19日 「かぶき者の美意識」  
村瀬博春(学芸主査)  
10月26日 「利家と戦国合戦」  
末吉守人(普及課長)  
いずれも午後1時30分~ 当館講義室(聴講無料)

### 列品解説

会期中の毎週水曜日、午前11時と午後2時に、展示室で学芸員による列品解説を行います。どなたでもご参加できますが、観覧料が必要です。  
開催日: 9月18日(水)、25日(水)  
10月2日(水)、9日(水)、16日(水)、23日(水)

常設展示室 第3展示室)

特集

# 吉田富士夫

手品師の息づかい

9月14日(土)~10月27日(日)



催眠術B 昭和五十五年

北陸二紀会を率いられた吉田富士夫氏は、道化や手品師、催眠術師をテーマに幻想的な作品を描き続けました。それは幼い頃にみたサーカスや粟崎遊園での少女に催眠術をかけて浮かべる手品の想い出が根底にあるのだと、吉田氏は画集『幻影劇場』で述べられています。

その画面は、艶のある透明な絵具を何層も重ねて作りあげたもので、テーマと相まって、切なく美しい独自の雰囲気醸し出しています。いずれの作品にも不思議な物語があり、観る者は画面のあちこちをさまざま楽しみを味わうのです。

吉田氏が亡くなられたのは昨年の五月ですが、近作では先に述べた淡い幻想的な画面が、スケールの大きい雄大なものへと変貌を見せていました。それだけに急逝の感が強く、惜しまれてなりません。

本特集は当館所蔵の吉田氏の油彩作品二十点を一堂に展示するものです。どうぞ幻想の軌跡をご堪能下さい。

### 略歴

昭和四年金沢市に生まれる。二十一年石川県立工業学校図案科卒業。二十四年第三回二紀展初入選、二十五年佳作賞、二十六年褒賞受賞。宮本三郎に師事。二十九年から四年間、陶芸技術が評価されてスペインに招かれて指導。五十一年二紀展宮本三郎賞、五十五年文部大臣賞、平成二年菊華賞、六年栗原賞、八年第50回記念賞受賞。二紀会評議員等の要職を歴任し、十二年没する。

### 前田育徳会展示室

特集 加賀藩の美術工芸

武者手鑑

安土日記

荏柄天神縁起絵巻

アエナス物語図毛綴壁掛

真鳥羽入箆筒

●色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

清水九兵衛

野々村仁清

野々村仁清

### 第1展示室

企画展 利家とまつ 加賀百万石物語展

### 第2展示室

企画展 利家とまつ 加賀百万石物語展

1982年 私

カサブランカ

熱叢夢

赤とんぼ

草笛

鴨居 玲

高光一也

宮本三郎

坂 坦道

中島東洋

### 第3・4展示室 (油彩画・彫塑・造形)

特集 吉田富士夫―手品師の息づかい

第3展示室で開催。上の記事をご覧ください。

第4展示室で開催。上の記事をご覧ください。

●沈金箱「秋すだれ」

童児遊ぶ

金銀家嵌紅葉狩図香炉

大身槍 日本号写 附螺鈿拵

桑縁箆組風炉先

太夫

山の秋

原野

古九谷など古美術部門の一部も展示されています。

観覧料 九月十四日から十月二十七日までは全館統一料金となります。2頁をご覧ください。

吉田美統

前 史雄

木村雨山

米沢弘安

隅谷正峯

氷見晃堂

坂根克介

玉井敬泉

由里本 出



太夫 坂根克介



沈金箱「秋すだれ」 前 史雄

常設展示室

## 主な展示作品

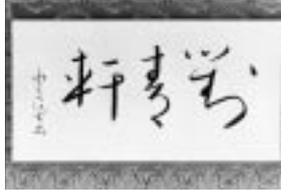
9月14日(土)~10月27日(日)

● = 国宝      = 重要文化財

美術館小史・余話 26

嶋崎 丞 当館館長

対青軒 安田鞞彦(右)  
「対青軒」内部(左)



この連載二十回目(第二二二号)で述べたように、本館施設の不備を補うべく、昭和四十三年九月には別館を設置した。その最も大きな意味は、一階部分に茶室を設けることにあった。連載十三回目(第二一四号)でも触れたように、当館収蔵品の柱の一つとして、山川庄太郎さん旧蔵の茶道美術品のコレクションがある。これらを単に展示室で公開するだけではなく、実際に茶室で使うことによって、茶道美術の真髄を理解することも重要な美術館活動であり、そのためにも茶室の設置はぜひとも必要だった。事実茶道美術品を収蔵している美術館には、茶室を設けてあるところは多い。戦後建設された公立美術館の中では、当館は早い方であったと思う。そして別館落成の日を迎え、その茶室開きには、山川さんの茶道美術品が堂々と使用されたのである。

別館一階の茶室部分には、十畳の和室に四畳の水屋がついた部分があり、さらに十名が一室に会することのできる立礼席の、あわせて二室が設けられた。この茶室の名前は、依屋宗達の号にあやかって、かつて宝円寺にあった茶室「対青軒」の名称を引き継いだ。さらに揮毫(右上写真)を安田鞞彦さんにお願ひし、名札は彫刻家であり漆芸家でもあった吉田榊堂さんに制作していただいた。これは現在も茶席入口に掲げられている。その後昭和四十五年(西川文平さんから草庵風の茶室「犀庵」が寄附され、別館に附随して設置された。

茶室「対青軒」「犀庵」の設置(一)

展覧会回顧

日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界

平成十一年に日本芸術院会員に就任された、金沢市在住の陶芸家である大樋長左衛門氏の初めての本格的な回顧展として、「日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界」展が、四月二十五日から五月十九日まで、二階第5と第6展示室で開催されました。

これまで、当館では日本芸術院会員の浅蔵五十吉氏、重要無形文化財保持者の寺井直次氏の業績を振り返るべく、本格的な回顧展をやはり二階の第5展示室で開催してあります。しかし、今回の開催にあたっては、大樋氏の長年にわたる多彩な創作活動を集約するには、一室ではかなり難しいとの判断により、二室を使用することで、計百六十五点の作品を陳列することになりました。

その結果、伝統ある大樋焼を受け継ぐ現代の茶陶作りの名手として、また日展や日本現代工芸美術展を中心に発表を続ける感性鋭い現代感覚にあふれた作家としての、それぞれの秀作を一室に会することができました。これまで、この二つの創作活動を同時に見る機会がなかったことから、この展覧会によって氏の創作の根元にあるものが、東洋陶磁の古典に範を求めつつ茶道美術の本質に根ざしたものであることに気づくとともに、さらにそこから新しい創造を目指す強い意志とそれを可能にする多彩な陶技と卓抜な造形感覚とが結実したものであることを強く感じました。

そして、近年「達磨」や「大黒天」を主題にしたり、仙厓の禅画にも通じるような飄逸な作風を展開する大樋氏の、さらなる実り豊かな表現世界が開示されようとすることも提示できたことと思っています。

(寺尾健一 学芸専門員)

図書閲覧室NOW

「利家とまつ」関連本を開架

本年は、NHK大河ドラマ「利家とまつ 加賀百万石物語」が放映され、関連の催事があちこちでおこなわれています。当館でも、十四日から協賛の大型企画展が開催されます。そこで九月と十月は、展覧会の内容にあわせて、同展に関連する図書を取り上げてみたいと思います。大河ドラマの影響もあってか、たとえば、昨年(前)から最近まで刊行された図書を、『利家』をキーワードにインターネットで検索してみると、四十種類を超えるものがリストアップされてきます。当館では、図書の収集の多くを寄贈に頼っていることもあって、これらを積極的に収集することはできませんので、寄贈を受けたものを中心に、閲覧室で公開いたします。

九月は、今年刊行された左記の図書を開架します。はこの春、おとなりの歴史博物館で開催された展覧会の図録で、利家とまつが生きた時代を、三つのキーワードを軸にとらえています。は、当館で開催する展覧会の図録で、展示される作品の詳細を知ることができます。は、加賀前田家が深くたしなんだ茶の湯の姿を、利家の時代から現代まで概観したものです。は、タイトルのとおり、大河ドラマのあらすじや、俳優の横顔を紹介しています。以上、開架してある図書は、もちろん自由にご覧いただけますし、それ以外にも、書庫に関連のある図書がたくさんありますので、館内のパソコンで検索してみたいかがでしょうか。

戦い・くらし・女たち 利家とまつの生きた時代

利家とまつ / 2002 / 石川県立歴史博物館

加賀前田家 百万石の茶の湯 利家から現代まで

利家とまつ / 2002 / NHK出版

(前・後) NHK大河ドラマ・ストーリー

開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

# 企画展示室

## 創立20周年記念展

九月六日(金)～十日(火)  
(第7展示室)

地域文化へ清新な息吹を吹き込む会であることを希い、『小松青年美術会』として発足した『玄の会』の活動は二十年の歳月を重ねました。「自由で活発な表現活動と新たな創作の試みの展開を目指し互いに切磋琢磨しあう」ことを本会の活動方針とし、年一回の小松市民ギャラリーフルフレでの大作展を中心に、小品展や研究会を行ってきました。また10周年、15周年には石川県立美術館で記念展を開催しました。今回は20周年の節目の展覧会として、会員十名がそれぞれ三、四点の油彩画・アクリル画の大作を発表します。平成十年三月に急逝した生地太久氏の遺作も展示いたします。

(会員) 五十嵐陽子・大橋由美子・生地京子・鈴木治男  
西房浩二・平林順一・本田徹太郎・益田恭行  
安田 淳・山本 勇

入場無料  
連絡先 小松市打越町丁四三 一 安田淳  
☎〇七六一 二四 六八八六

## 中国少数民族の文字展

九月六日(金)～十日(火)  
(第8展示室)

中国少数民族の古文字は三十種類を数え、各自の歴史を持っていきます。最も早いものは紀元二～三世紀に溯ります。今回展示の主な文字は、チベット文字、突厥文字、回鶻文字、契丹文字、西夏文字、女真文字、モンゴル文字、バスバ文字、満州文字、彝文字、東巴文字等です。本展は中国人民対外友好協会の協力を得、それらの拓本、資料約百八十点を公開します。併せて北枝篆会会員の古文字の書篆刻作品も展示します。また会期中の九月七日(土)午前十時から、美術館ホールでの講演会もあります。

入場無料  
連絡先 金沢市三口新町三 一八 四  
北枝篆会事務局 北室南苑

☎〇七六 二二二 三六二四

## 第22回現展石川支部展

九月六日(金)～十日(火)  
(第9展示室)

現代美術家協会展(現展)は、例年六月、東京上野の東京都美術館で本展(本年は第五十八回展)を開催しています。絵画・版画・立体・工芸・デザイン・写真の各部門を持ち、具象・抽象とも多彩な作品が約六百点余り展覧されます。さらに七月には大阪市立美術館で、八月には愛知県美術館で移動展を開催しています。今回の石川支部展は、県内作家の作品を中心に、県外招待作家の作品も含め、約六十点の作品を展示します。

入場無料  
連絡先 金沢市常盤町三四 七 田浦隆透  
☎〇七六 二五二 八七四五

## 各地の展覧会

九月

開催日程 休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。  
日中国交正常化30周年記念特別展

- |                               |            |
|-------------------------------|------------|
| シルクロード 絹と黄金の道                 | 10/6まで     |
| 東京国立博物館(東京都台東区・〇三三三八三 一一一一)   |            |
| 悠々と 小倉遊亀展・人、花、こころ             | 10/6まで     |
| 東京国立近代美術館(東京都千代田区・〇三三三二四 一五六) |            |
| 高祖道元禅師750回大遠忌記念               | 9/13/10/14 |
| 大本山永平寺所蔵絵画の名品展                | 9/13/10/14 |
| 福井県立美術館(福井市・〇七七六 二五 〇四五)      |            |
| マグリッド展―不思議空間へ                 | 9/1/10/20  |
| 名古屋美術館(名古屋市中区・〇五一 二二二 〇〇〇)    |            |
| 西大寺古絵図は語る―古代・中世の奈良―           | 9/14/10/6  |
| 奈良国立博物館(奈良市・〇七四二 二二 七七七)      |            |
| 20世紀版画の巨匠 浜口陽三展               | 9/19/10/27 |
| 国立国際美術館(吹田市・〇六 六八七六 一四八)      |            |
| スーラと新印象派                      | 9/10/10/20 |
| 京都国立近代美術館(京都市左京区・〇七五 七六一 四一一) |            |

## 月例映画会 今月のイチ押し

石川の伝統工芸を特集!!

九月から十月にかけて、当館で「利家とまつ 加賀百万石物語展」が開催されます。今月のイチ押しは、この会期中に予定している「石川の伝統工芸特集」です。石川県は、伝統工芸の盛んな地域としてよく知られていますが、その礎は江戸時代、代々の藩主が築いてきたといっても過言ではありません。加賀の風土の中で培われたすぐれた技術は、今日にも受け継がれ、その片鱗を、現代の名工たちの作品の上に垣間見ることが出来ます。そこで同展会期中には当県ゆかりの人間国宝のわざの粋を堪能していただこうと、

左記特集プログラムを組みましたので、どうぞご覧下さい。



榎樫六郎 神代松花文桜流水  
(第5展示室に出品中)

9月15日	「時絵松田権六のわざ」 「独学の指物師 木工芸 氷見晃堂」	(30分) (25分)
9月22日	「時絵大場松魚の平文のわざ」	(32分)
10月13日	「西出大三 截金の美」 「時絵寺井直次の卵殻のわざ」 「木の生命よみがえる 川北良造の木工芸」	(30分) (30分) (33分)
10月27日	「重要無形文化財輪島塗に生きる」 「加賀友禅 木村雨山」	(35分) (20分)

ホール

第32回ミュージウム・コンサート

オーケストラ・アンサンブル金沢メンバーによる室内楽「利家とまつ」を奏でる

日時 九月二十三日(月・祝) 午後一時三十分～  
出演者

- ヴァイオリン 坂本久仁雄、大隈容子、上島淳子
- ヴァイオリン 江原千絵、木村俊介
- ヴィオラ 石黒靖典、マリアン・ネメシュ
- チェロ 大澤明
- コントラバス 今野淳
- オーボエ 加納律子

プログラム

- 渡辺俊幸作曲 「利家とまつ」より  
「颯爽」、「友愛」、「永久の愛」
- マルチェロ作曲 オーボエ協奏曲二短調より  
第2楽章、ベニスの愛

入場整理券の申し込み受けは終了いたしました。駐車スペースが少ないので、自家用車でのこ来館はご遠慮下さい。

第32回文化財現地見学ののお知らせ

今年度の文化財現地見学は、現在次の予定で準備を進めています。見学コースや申し込み方法などの詳細は、来月号に掲載いたしますので、しばらくお待ち下さい。

- 日程 十一月十六日(土)～十七日(日) 一泊二日
- 見学先 阪神方面
- 見学地 逸翁美術館(池田市)、満願寺(川西市)
- 香雪美術館(神戸市)他
- 申込抽選会 実施日の一週間前頃を予定

Q 前田育徳会とは？

2階常設展示室の一角に前田育徳会展示室がありますが、この「前田育徳会」とはどのような団体なのですか？

A

前田育徳会は東京にある財団法人です。加賀藩主であった前田家に伝世した文化財の数々を、永久保存・管理し、また一部の貴重な古典籍を複製頒布することを目的に、大正十五年二月二十六日に設立されました。これに先立つこと三年前、大正十二年に関東大震災が起こりました。その際多くの文化財が失われ、このような事態を憂慮した前田家十六代利為氏が設立を決意したものです。「育徳」とは、五代藩主前田

県美 Q&A

綱紀が江戸上屋敷の庭園の名に用いた「育徳園」に由来します。同会が所蔵する文化財は、尊經閣文庫の名称が示すとおり、三代利常から五代綱紀までが収集した文書、典籍類が中心で、このほか絵画、名物裂、工芸品、歴代藩主の武具・甲冑・陣羽織、能面、能装束など多岐にわたっています。その中には約百点の指定文化財が含まれていて、我が国の文化財コレクションの中でも、とりわけ優れた質と量を誇っています。  
昭和五十八年当館の開館に際し、前田育徳会のご厚意により「前田育徳会展示室」を設けました。そして同会が所蔵する文化財を保存管理に支障のないように、毎月展示替えをしながら公開しています。展示内容は、本紙でご紹介しております。

九月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
9 / 1 (日)	CDコンサート	武満 徹 1 「地平線のドーリア」ほか(約40分)	ホール
9 / 7 (土)	土曜講座	古典文学の意匠 源氏物語 3 (前田武輝 学芸専門員)	講義室
9 / 8 (日)	月例映画会	荒川豊蔵と瀬戸・志野黒 よみがえる桃山の美(23分) 輝け貝のいのち 螺鈿 片岡華弘(25分)	ホール
9 / 14 (土)	講 演 会	対談「利家とまつ」 前田家当主 先祖を語る 出演 前田利祐(前田家十八代当主)・嶋崎 丞(当館館長)	ホール
9 / 15 (日)	月例映画会	蒔絵 松田権六のわざ(30分) 独学の指物師 木工芸 氷見晃堂(25分)	ホール
9 / 21 (土)	土曜講座	加賀の金工 (南 俊英 学芸第一課長)	講義室
9 / 22 (日)	月例映画会	蒔絵 大場松魚の平文のわざ(32分) 西出大三 截金の美(30分)	ホール
9 / 23 (月・祝)	ミュージウム・コンサート	「利家とまつを奏でる」 NHK大河ドラマ「利家とまつ」のテーマ他 演奏 オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー(要入場整理券・受付終了)	ホール
9 / 28 (土)	土曜講座	前田家をめぐる女性たち (末吉守人 普及課長)	講義室
9 / 29 (日)	講 演 会	「戦国大名と茶の湯」 講師 嶋崎 丞(当館館長)	ホール

今月の全館休館日は九月十一日(水)・十三日(金)です。



## 交霊術・HARP

吉田富士夫

昭和4年(1929)~平成13年(2001)

平成8年 1996

第50回記念二紀展 第50回記念賞

縦180.3 横225.7 (cm)

交霊のハーブを奏でる霊媒師と呆然とした顔を私たちに向ける女道化師。その二者をペガサスの翼を持った人魚が繋いでいます。人魚の下には仮面が、そしてその奥には男の道化師が生気なくしゃがみ込んでいます。バックはこの世のものとは思えぬ奇怪な世界です。これまで作者はサーカスの道化師や手品師・催眠術師をテーマに描いてきました。それらの作品は淡く幻想的な色彩を基調にし、人物を取り巻く空間はある一定量に限られていました。しかし、本作では色彩はダイナミックな階調を持つシャープなものですし、空間はこれまでとは全く違つ、此岸と彼岸とにまたがる広大なものです。

作風の転換は数年前から始まっていました。時には画面一杯に巨大な顔を描き、作者独特のオブラートに包まれた柔らかな色彩はむき出しにされ、ひどく乾いてしまったと感じられたこともありましたが、本作はこうした実験の帰結といえましょう。大きな山を越えた作者の充足感が感じられます。

さて、絵解きに戻りましょう。女の道化師は死んでしまった恋人、あるいは夫に逢つたために、霊媒師に交霊を頼みます。すると奏でられたハーブの音は人魚に変わり、男の魂を金の息吹で彼女の耳元に届けるのです。懐かしい声を聞いたその喜び、そして悲しみが、女道化師の相半ばする表情にうかがえます。

本作は第50回記念二紀展出品作であると共に、作者の没年、遺作として第55回展を飾ることになりました。

## ミュージアムショップ通信

松尾芭蕉が北陸を旅したのは、ちょうど今頃の季節。金沢城下に入ったのは八月二十九日(新暦)のことでした。

秋涼し手毎にむげや瓜茄子 芭蕉

金沢の句会での、よく知られた一句です。猛暑の夏も過ぎて、ようやく秋になった心地よさが伝わりますね。美術館もそろそろ秋模様です。

さて、ちょうど県美Q&A(7頁)でも話題になってますが、前田家の文化財を今に伝えるのが前田育徳会展示室。月替わりでいろいろな名品がいつでも見られますし、時々大きな特集展示を開くこともありますよ。一番最近開かれたものは「前田利為と尊經閣文庫」です。前田家十六代当主として、華族として、軍人として活躍された利為侯の生涯と文化事業にスポットを当てた展覧会でした。国宝、重文の作品をはじめ、近代日本画や彫刻、十九世紀に活躍した欧州作家の油彩画など、尊經閣文庫の名品がズラリ!。この時の図録(全百二十三頁、図版部分八十七頁)もまだ販売中ですので、ぜひぜひご覧下さい。



『前田利為と尊經閣文庫』  
(平成10年刊 定価2,000円)

### 休館日

九月十一日(水)・十三日(金)

### 石川県立美術館だより

第一二二七号 平成十四年九月一日発行

〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三一)七五八〇  
FAX 〇七六(一三四)九五五〇